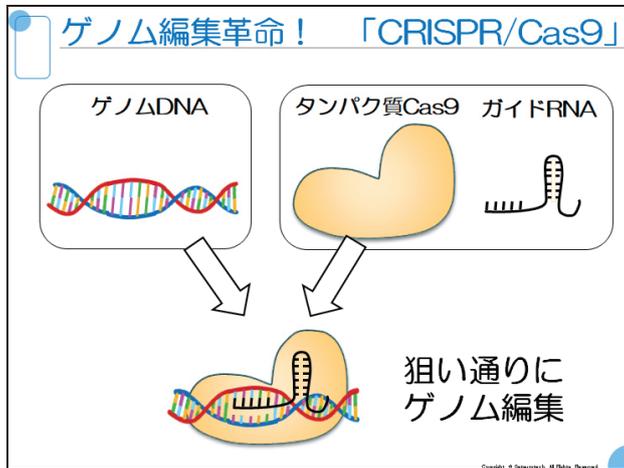


|              |   |
|--------------|---|
| Title        | ゲノム編集食品によるイノベーションのための提言<br>(遺伝子組換え食品との違いについて)   |
| Author(s)    | 竹澤, 慎一郎   |
| Citation     | 年次学術大会講演要旨集, 32: 778  |
| Issue Date   | 2017-10-28  |
| Type         | Conference Paper  |
| Text version | publisher   |
| URL          | <a href="http://hdl.handle.net/10119/14986">http://hdl.handle.net/10119/14986</a>   |
| Rights       | 本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに<br>掲載するものです。This material is posted here<br>with permission of the Japan Society for Research<br>Policy and Innovation Management. |
| Description  | 一般講演要旨  |

講演題目  
ゲノム編集食品によるイノベーションのための提言  
(遺伝子組換え食品との違いについて)

○発表者氏名 (発表者所属)  
竹澤慎一郎 (株式会社セツロテック)

ゲノム編集は2012年のCRISPR/Cas9の発見以来、生命科学の研究を大きく加速している。すなわち、エンドヌクレアーゼであるCas9タンパク質は、gRNAによりゲノムの特定の部位を切断し、内在性の修復システムにより遺伝子の切断や書換えが従来よりも遥かに容易に行えるようになった。本技術を活用し、植物・動物の育種に応用し、品種改良が掛け合わせにより運よく新品種を得るような方法から、遺伝子機能の解析により狙い撃ちで開発するゲノム編集食品の現実性が高まっている。一方で、遺伝子組換え食品の社会需要はいまだに進んでいない。とは言い難く、遺伝子組換え食品とゲノム編集食品との線引きを明確にし、社会需要も促進しなければならない。



病気に強い      生産性が高い      肉質や風味が独特

遺伝子組換え食品との違い

|            |             |   |        |
|------------|-------------|---|--------|
|            | 遺伝子組み換え     | ゲノム編集<br>DNA欠損・置換<br><b>セツロテック</b><br>Seturo Tech | 従来の育種法 |
| 遺伝子変異の導入方法 | 微生物由来の遺伝子導入 | ゲノム編集法  | 自然突然変異 |
| 外来遺伝子の存在   | 有り          | 無し  | 無し     |
| 研究開発の期間    | 5年          | 1年  | 数十年    |

↓

**安心安全で早い!**